

# 実習 OpenRefineの使い方

2023年9月24日  
大学図書館研究会第54回全国大会  
東京大学情報システム部・前田朗

# 実習内容

1. インストール
2. 講師操作の繰り返し
3. 持参データ
4. 自由練習・個別相談

インストール

# ダウンロードと解凍

1. OpenRefine入手  
<https://openrefine.org/>  
(「openrefine」で検索)
2. 「Download」ボタン
3. Zipファイル解凍
4. デスクトップに配置

# 設定・起動

## 1. 使用可能メモリを増やす

① openrefine.l4j.ini

② パラメータを3000M (3BG) に

-Xms256M

-Xmx1024M

## 2. 起動する

① openrefine.exe

② コマンドプロンプト起動確認

③ Webブラウザ上で画面表示確認

## 3. セキュリティソフトが警告を出すことがあるが許可

# Microsoft Defenderの例

**Windows** によって PC が保護されました  
Microsoft Defender SmartScreen は認識されないアプリの起動を停止しました。このアプリを実行すると、PC が危険にさらされる可能性があります

「詳細情報」

→ 「実行」で許可

# 画面表示言語設定

1. 「Language settings」
2. プルダウンで「日本語」
3. 「Change language」

# その他

- ・ OpenRefineの終了
  - ・ コマンドプロンプト停止
- ・ うっかりWebブラウザを閉じてしまったら  
<http://127.0.0.1:3333/>
- ・ データリセット
  1. 「既存プロジェクト」
  2. 「作業ディレクトリ閲覧」
  3. OpenRefineの終了
  4. 「作業ディレクトリ」内のファイルを全削除
  5. OpenRefineの起動



講師操作の繰り返し  
(repeat after me)

# JAPAN SEARCH

- ・ 国立国会図書館が提供する日本のデジタルアーカイブのポータルサイト

<https://jpsearch.go.jp/>

- ・ Web APIによりメタデータを取得できる

<https://jpsearch.go.jp/static/developer/webapi/>

# トップ2000件取得

Webブラウザでアクセス後、  
ctrl+sで名前をつけて保存

<https://jpsearch.go.jp/api/item/search/jps-cross?keyword=葛飾北斎&from=0&size=500>

<https://jpsearch.go.jp/api/item/search/jps-cross?keyword=葛飾北斎&from=500&size=500>

<https://jpsearch.go.jp/api/item/search/jps-cross?keyword=葛飾北斎&from=1000&size=500>

<https://jpsearch.go.jp/api/item/search/jps-cross?keyword=葛飾北斎&from=1500&size=500>

全件取得するAPIも用意されているが、  
手作業で行うのは難しい

# データの読み込み

1. 「ファイルの選択」
2. ファイル（複数可）を指定
3. 「次へ」
4. 複数ファイル選択の場合は、選択ファイルを確認の上、「パースオプションの指定」  
（単一ファイルのときは不要）

# パースオプション指定 →プロジェクト作成

1. アイテム1件の範囲を指定
2. クリックで選択確定
3. プレビューを表形式データを確認し、「プロジェクトの作成」
4. 「行」「レコード」件数確認

```
{  
  "list": [  
    {  
      "id": "xxxxxx",  
      "common": {  
        "id": "xxxxxx",  
        "title": "xxxxxx",  
  
        (以下、略)      }  
    }  
  ]  
}
```

JAPAN SEARCHでのアイテム範囲選択例  
実習ではCOMMONのみ取得ください

(アーカイブズごとの独自項目は取り込まない)

# 表の表示

- ・「行」モードと「レコード」モードを使い分ける
  - ・レコードの判定は先頭カラムによる
  - ・文字列フィルタなどに影響
- ・「前へ」「次へ」で表示ページ切り替え。1ページの表示件数を切り替え可。

# カラム（列）の操作

- ・ 各カラム（列）の操作はヘッダ行の▼プルダウンから行う
- ・ 全カラムの操作や一部特殊処理は一番左の「全て」から行う

# カラムの並び替え・削除

(レコードを正しく認識させる)

1. 「全て」の▼
2. 「カラムの編集」
3. 「カラムの並び替え・削除」
4. ユニークキーとなるカラムを、一番先頭に
5. 「OK」
6. 「レコード」モード件数確認

この研修のJAPAN SEARCHの例では次のいずれか

- ・ 「common-id」を先頭に
- ・ 先頭の「File」を削除



# ファセット

1. 対象カラムの▼
2. 「ファセット」>「文字列ファセット」
3. 左カラムのファセット表示確認

タイトル、著者、出版社などで試してみる

# クラスタリング

1. ファセット欄「クラスタリング」
  - ・「全ては表示できません」メッセージが出た場合は、「カウントを制限してください」で上限緩和（有効性はマシンスペック依存）
2. 類似した文字列がグループ化表示されていることを確認
3. 方法を「最近傍法」に変更し別の結果が出ることを確認する
  - ・「半径」を大きくしヒット増
  - ・「文字ブロック」を小さくしヒット増

# 文字列フィルタ

1. 対象カラムの▼
2. 「文字列フィルタ」
3. 文字列を入力
4. 「反転」を試す
5. 正規表現マッチを試す

出版年で「明治」+「数値（半角）」  
のパターンをマッチさせる

```
^明治¥d+$
```

# ソート

1. 対象カラムの▼
2. 「ソート」

# 星と旗でマーキング

## 1. マーキング作業

1. 「全て」の星と旗マーク確認
2. 星でマーキング
3. 旗でマーキング

## 2. マーキング後の処理

1. 「全て」の▼
2. 「ファセット」>「星ファセット」
3. 「ファセット」>「旗ファセット」

# 自動セーブとやり直し

- セーブ後から実行
  1. 青ダイヤのアイコン
  2. 既存のプロジェクト
  3. 「プロジェクト名」の値
- やり直し
  - 「取り消す/やり直す」

# 外部ファイル出力

- ・「出力」＞「Excel2007+  
(.xlsx)」
- ・Excelで一行1レコードにしたいときは、複数行の原因の  
カラムを「セル編集」＞「多  
値のセルを結合」で1行にま  
とめておく

この研修のJAPAN SEARCHの例では（あれば）「File」を削除し「category」と「subcategory」とともに「多値のセルを結合」すれば1行1レコードになる

# 外部データとの照合

1. 対象カラムの▼
2. 「照合（名寄せ）」＞「照合開始（reconcile）」
3. Wikidata(ja)を設定に追加
4. 「Wikipedia(ja)」  
<https://wikidata.reconci.link/ja/api>
5. 照合開始」
6. 対象カラムの▼
7. 「照合（名寄せ）」＞「アクション」＞「最優候補とセルをマッチさせる」
8. 書き代わりとリンク生成を確認

JAPAN SEARCHの「contributor」（寄与者）に、Wikidata(ja)で照合をかけてみる



持参データ

# OpenRefines向きの持参データでない場合はこちらを

- ERDB-JP

- <https://erdb-jp.nii.ac.jp/>

- 「ドキュメント」→「検索/エクスポート」

- NACISIS-CAT図書100分の1サイズ

- <https://maedaak.github.io/biginDatacleansing4Librarian/>

- 自機関の新JAIRO Cloud

- 「機関リポジトリURL」 + /oai?verb=ListRecords&metadataPrefix=jpcoar&from=2023-04-01&until=2023-09-23

- （2ページめ以降）

- 「機関リポジトリURL」 + /oai?verb=ListRecords&metadataPrefix=jpcoar&resumptionToken=XXXX

- researchmap文献

- [https://api.researchmap.jp/XXXX/published\\_papers?limit=1000](https://api.researchmap.jp/XXXX/published_papers?limit=1000)

自由練習・  
個別相談